

国語 第3学年 場面をくらべながら読み、感想を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第3学年下巻に載っている物語。単元名と配当時間は光村図書の年間指導計画例（9月～10月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（C(1)オ・(1)オ）を扱う物語の単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、家族でかけおくりをする場面と、一人でかけおくりをする場面を、だれと・いつ・様子・聞こえた声などの観点で比べて、同じ所と違う所を叙述を挙げて言える。そのうえで、比べて気付いたことを基に、どの言葉から何を感じたかを書いた感想文をまとめ、友達の感想と比べて、感じ方に違いがあることに気付く。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1)イ	イ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)カ	カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使う（(1)オ）。登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて感想をもつことができる（C(1)エ・オ）。感想を共有して一人一人の感じ方などに違いがあるこ

とに気付き、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①粘り強く、場面を比べて登場人物の様子や気持ちを想像し、学習課題に沿って、感じたことを感想の文章に書こうとしている。

単元の流れ

全10時間。光村図書出版の年間指導計画例（令和6年度版）は、この単元に読むこと10時間を配当している（9月～10月）。次ごとの内訳（2・6・2）はこちらの案。学校の年間指導計画が違う時はそれに合わせる。国語の標準授業時数は第3学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、初めの感想（心に残ったこと・不思議に思ったこと）を書く。	態①（初めの感想）
	2	○物語を場面に分け、場面ごとに「いつ・どこで・だれが・どうした」を表にまとめる。 ○初めの感想を読み合い、単元の問い「二つのかげおくりを比べると、どんなことを感じるか」と学習の進め方を決める。	
第2次	3	○家族でかげおくりをする場面を読み、様子や気持ちを表す言葉に線を引いて、場面の表に書く。	知①（ノート）
	4	○空襲の夜にお母さんたちとはぐれる場面を読み、ちいちゃんの行動と気持ちを想像する。	思①（ノート）
	5	○焼けた家でお母さんたちを待つ場面を読み、ちいちゃんの様子と気持ちを想像する。	
	6	○一人でかげおくりをする場面を読み、ちいちゃんの様子と気持ちの移り変わりを想像する。	思①（ノート）
	7 （本時）	○家族でかげおくりをする場面と、一人でかげおくりをする場面を比べ、同じ所と違う所から感じたことを書く。	思②（ワークシート）
	8	○時代が移った後の場面を読み、それまでの場面と比べて感じたことを書く。	思②（ノート）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	9	○いちばん心に残った比べ方を選び、「比べた場面→根拠の言葉→感じたこと」の順で感想文を書く。	思②（感想文） 態①（感想文の見直し）
	10	○感想文を読み合い、同じ所と違う所に付箋を貼って、感じ方の違いを話し合う。 ○学習を振り返る。あまんきみこのほかの作品を紹介し、並行読書続ける。	思③（付箋・発言） 態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：家族でかげおくりをする場面と、一人でかげおくりをする場面を比べ、同じ所と違う所を叙述を基に見付け、それを基に感想をもつことができる。(C(1)オ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間までの場面の表で、ちいちゃんの様子が場面ごとにどう変わってきたかを確認める。 2 本時の問いをつかむ。 ○「物語の中で、かげおくりをしたのはどの場面でしたか」 【めあて】二つのかげおくりをくらべて、感じたことを書こう。 〈予想される児童の反応〉 ・はじめの方で、家族みんなでかげおくりをした。 ・終わりの方で、ちいちゃんが一人でかげおくりをした。	・場面の表を黒板に貼り、かげおくりの出てくる場面に印を付けておく。 ・この時間は、二つの場面を比べてから感想を書くことを先に伝える。
展開 (分)	3 一人で、二つのかげおくりの様子をワークシートの表に書き写す(だれと・いつ・様子・聞こえた声・空にうつったかげ)。 4 同じ所と違う所を見付ける。 ○「二つのかげおくりで、同じ所はどこですか。違う所はどこですか」 5 ペアで見付けたことを伝え合い、全体で表にまとめる。 6 違いから感じたことを考える。 ○「違いに気付いて、どんなことを感じましたか。どの言葉からそう感じましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・どちらも、数を数えてかげおくりをしている。 ・どちらも、空に白いかげがうつっている。 ・どちらも、家族の声が出てくる。 ・はじめは家族がそろっていたけれど、後の方はちいちゃん一人。 ・後の方の家族の声は、そこにはいない家族の声。 ・はじめはうれしそうだけれど、後の方はさびしくて悲しい。 ・同じ遊びなのに、こんなに違うのがつらい。 ・一人でも家族の声が聞こえて、ちいちゃんは少しうれしかったのかもしれない。	・書き写す叙述は、使う教科書から先生がワークシートに書き入れておき、子どもは該当する所に線を引いてもよいことにする。 ・同じ所が見付からない子には、表の「だれと」「聞こえた声」の行を指して、二つを並べて見させる。 ・「かわいそう」の一語で終わる子には「どの言葉から」と返す。 ・家族の声が聞こえたことの受け取り方が子どもによって違う時は、どちらかに決めず、叙述を根拠に両方を認める。 ・読むのが苦手な子には、二つの場面だけの拡大本文(ルビ付き)を渡す。 ・早く終わった子には、二つのかげおくりの間に、ちいちゃんのまわりの人がどう変わったかを場面の表から確かめさせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 比べて感じたことを書く。 （型）「家族とのかげおくりでは…。ちいちゃんだけのかげおくりでは…。くらべて、わたしは…と感じた。それは、…という言葉からです」 8 二、三人が読み上げ、感じ方の違いを確かめる。 9 振り返りを書く。	・感想の発表は希望者からにし、書いた物で受け止める。 ・振り返りは「比べて気付いたこと」と「友達の感想を聞いて思ったこと」の二つで書かせる。 ・次の時間は、最後の場面をそれまでの場面と比べることを伝える。 ◎思② 二つのかげおくりの場面を比べて捉えたことを根拠に、感想をもっている。（ワークシート）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付・題名・めあて。その左に場面の表を縮めて貼り、かげおくりの出てくる場面に印。中ほどに二つのかげおくりを比べる表（上の段に家族でのかげおくり、下の段に一人でのかげおくり。列は右から、だれと・いつ・様子・聞こえた声・空にうつったかげ）。同じ所は青、違う所は赤で囲む。その左に、子どもの感想を、根拠にした列と線で結んで並べる。左端に感想の文の型と、振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は六つ。一つ目、感想が「かわいそう」「悲しい」の一語で終わる。手当ては、比べる表で違う所を見付けてから感想を言う順にし、「どの言葉から」を必ず添えさせること（C(1)オ）。二つ目、場面の移り変わりがつかめず、ちいちゃんが一人になっていく流れを追えない。手当ては、場面の表に「ちいちゃんのそばにいる人」の欄を作り、単元の間ずっと掲示すること（C(1)エ）。三つ目、戦争中の言葉や暮らしを表す言葉が分からず、場面の様子が思い浮かばない。手当ては、辞書で意味を確かめ、当時の写真や絵を見せること（第3の2(1)イ・(1)オ）。四つ目、一人でかげおくりをする場面で、家族の声 genuinely 聞こえたと受け取る子と、そうでないと受け取る子がいて、話がかみ合わない。手当ては、どちらかに決めず、叙述を根拠にそれぞれの考えを認め、感じ方の違いとして扱うこと（C(1)カ）。五つ目、最後の場面で時代が移ったことに気付かない。手当ては、それまでの場面と「いつ」「どこで」「だれが」を表で比べさせること（C(1)イ）。六つ目、話の内容がつかなくて読み進められない子がいる。手当ては、範読の前に戦争の話であることを伝え、感想の発表を求めず、書いた物や個別の声かけで受け止めること。

プリントの案

場面の表（単元を通して使う）

横に場面ごとの列、縦に「いつ」「どこで」「ちいちゃんのそばにいる人」「ちいちゃんがしたこと」「様子や気持ちを表す言葉（書き写す）」の行。場面の数と区切りは使う教科書で先生が決める。C(1)エの「場面の移り変わりと結び付けて」を表の形にしたもの。

本時のワークシート（二つのかげおくりを比べる）

上に比べる表（上の段に家族でのかげおくり、下の段に一人でのかげおくり。列は、だれと・いつ・様子・聞こえた声・空にうつったかげ）。叙述は先生が教科書から書き入れる。同じ所に青、違う所に赤で印を付ける欄。下に「家族とのかげおくりでは…。ちいちゃんだけのかげおくりでは…。くらべて、わたしは…と感じた。それは、…」という言葉からです」の型。

語句カード（様子・行動・気持ち・性格）

一枚に、見付けた語句、どの場面にあったか、辞書で調べた意味、その語句を使った自分の一文。戦争中の言葉には、先生が用意した写真や絵の番号を書く欄を付ける。(1)オに合わせた。

感想文の用紙と振り返りカード

感想文の用紙は「比べた場面」「根拠の言葉」「感じたこと」「初めの感想から変わったこと」の四つの枠。振り返りカードは「比べて気付いたこと」「友達の感想を聞いて思ったこと」の二つの枠。C(1)オ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、「主体的に学習に取り組む態度」の評価標準の作り方（粘り強さ・自らの学習の調整）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 3年（Excel）「3年下巻」。单元名「場面をくらべながら読み、感想を書こう」・読むこと10時間・9月～10月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

